

(まとめ) 現在小1及び小6の、3つの療育センター受診者の発達障害児のうち、知的障害のない子ども(主に自閉症児)は約7割である。しかし、小学校へ上がると、光町の精神科医の外来受診のみで、他の受け皿はほとんどない。唯一、小1～中3までの子どもでは、1年間に、述べ73人が外来集団療育を受けているのみである。また、教室を開催しようにも、スタッフの確保も(通園施設が定員に満たない場合、スタッフの応援あり)できていないのが現状である。

(7) 専門家の養成

**基本的に | 知的障害と同じ**

- ・言語聴覚士のいる開業医からの依頼で、月2回程度、言語聴覚士の実習(集団療育・PEP3等)

(8) 普及啓発

**基本的に | 知的障害と同じ**

### III 障害児支援の体制

#### 1. 母子保健

担当部署：(区厚生部保健福祉課保健指導係)

担当スタッフ：

保健師：常勤（ 41 ）人，非常勤（ 10 ）人

保健師1人あたりの0~4歳人口（ 1,724 ）人 保健師1人あたりとは，係長を除く

その他：職種名（子育て支援専門員） 常勤（ ）人，非常勤（ 15 ）人

職種名（ ） 常勤（ ）人，非常勤（ ）人

#### 2. 乳幼児健診・就学児健診（平成24年度）

健診（時期）	実施主体	実施場所	年間のべ	1回平均	受診率	フォロー率 （内訳も）
乳児（ 歳4カ月）	市町村・その他（ ）	13 カ所	310 回	35.2 人	95.1%	8.5%
1歳半（1歳6カ月）	市町村・その他（ ）	13 カ所	367 回	30.2 人	95.1%	24.9%
2歳（ 歳 カ月）	市町村・その他（ ）	カ所	回	人	%	%
3歳（3歳5カ月）	市町村・その他（ ）	13 カ所	309 回	33.3 人	89.1%	14.7%
5歳（ 歳 カ月）	市町村・その他（ ）	カ所	回	人	%	%
就学時	教育委員会・その他（ ）	カ所	回	人	%	%
その他（ ）	（詳細）	カ所	回	人	%	%

\*内訳のうち，発達障害が疑われてフォローとなっている子どもはどこに入るかを明記してください。

4か月・1歳半・3歳・5歳児相談についての詳細は以下のとおりである。

障害児支援の体制

2 乳幼児健診の状況

乳児（4か月）

H24年度	実施場所	回数	1回平均	受診率	事後措置内訳								事後措置率	
					目の異常	耳の異常	心雑音	開排制限	発達	身体発育不良	その他	合計	合計	(再掲) 発達障害を 疑って
中	1	34	30.0	92.2%	3	34	3	17	19	21	7	104	10.2%	3.9%
東	1	36	30.8	94.3%	2	4	1	2	9	33	18	69	6.2%	3.8%
南	1	41	30.0	97.0%	5	6	1	10	6	4	8	40	3.2%	0.8%
西	1	34	56.7	94.7%	12	83	0	17	109	17	6	244	12.6%	6.5%
安佐南	1	49	54.8	95.2%	9	21	0	40	89	122	23	304	11.3%	7.9%
安佐北	5	48	20.0	94.4%	2	15	0	27	23	28	5	100	10.4%	5.3%
安芸	2	28	29.4	96.1%	2	2	0	1	1	9	1	16	1.9%	1.2%
佐伯	1	40	29.1	96.7%	0	18	1	10	7	2	9	47	4.0%	0.8%
合計	13	310	35.2	95.1%	35	183	6	124	263	236	77	924	8.5%	4.6%

西区・安佐南区は1回につき、2診体制 安佐北区・安芸区は出張健診あり

1歳半児（1歳6か月）

H24年度	実施場所	回数	1回平均	受診率	事後措置内訳						事後措置率		
					目の異常	耳の異常	心雑音	神経学的 所見・運動 機能	精神面の 問題	その他	合計	合計	(再掲) 発達障害を 疑って
中	1	33	29.9	92.6%	2	4	1	10	211	7	235	23.8%	21.4%
東	1	35	29.4	93.7%	0	0	0	16	177	8	201	19.6%	17.2%
南	1	39	32.7	96.2%	0	2	0	6	271	1	280	22.0%	21.3%
西	1	59	30.9	95.0%	6	29	0	39	369	1	444	24.3%	20.2%
安佐南	1	91	31.2	96.2%	3	5	2	59	804	80	953	33.6%	28.3%
安佐北	5	47	24.1	94.9%	3	4	0	16	223	13	259	22.9%	19.7%
安芸	2	28	28.4	93.1%	1	1	0	9	199	4	214	27.0%	25.1%
佐伯	1	35	34.8	96.4%	0	0	0	12	157	3	172	14.1%	12.9%
合計	13	367	30.2	95.1%	15	45	3	167	2,411	117	2,758	24.9%	21.7%

安佐北区・安芸区は出張健診あり

3 歳児（3 歳 5 か月）

H24年度	実施場所	回数	1回平均	受診率	事後措置内訳								事後措置率	
					目の異常	耳の異常	心雑音	神経学的 所見・運動 機能	精神面の 問題	尿たんぱく	その他	合計	合計	(再掲) 発達障害を 疑って
中	1	28	29.7	86.8%	27	7	6	0	84	9	7	140	16.8%	10.1%
東	1	35	29.8	89.2%	13	3	1	1	91	3	8	120	11.5%	8.7%
南	1	35	31.3	89.6%	29	2	0	1	71	7	1	111	10.1%	6.5%
西	1	54	30.4	89.6%	120	29	0	5	65	19	12	250	15.2%	4.0%
安佐南	1	47	56.6	90.4%	26	5	1	0	459	2	18	511	19.2%	17.2%
安佐北	5	48	23.4	87.6%	38	14	0	1	127	2	13	195	17.3%	11.3%
安芸	2	28	27.3	91.0%	9	2	0	0	89	3	1	104	13.6%	11.6%
佐伯	1	34	33.2	87.0%	49	2	1	0	26	4	2	84	7.4%	2.3%
合計	13	309	33.3	89.1%	311	64	9	8	1,012	49	62	1,515	14.7%	9.8%

西区・安佐南区は1回につき、2診体制 安佐北区・安芸区は出張健診あり

H24年度	実施場所	回数	1回平均	事後措置内訳				
				助言・指導	経過観察	療育センター紹介	他機関紹介	
中	1	4	3.5	7	1	4	2	←就学時相談紹介、大学のプレセラピー紹介
東	1	4	2.3	6	1	2	0	
南	1	5	2.6	9	2	2	0	
西	1	7	2.9	5	0	15	0	
安佐南	1	8	2.8	5	1	16	0	
安佐北	1	4	2.5	3	1	5	1	←安佐市民病院言語リハビリ紹介
安芸	1	5	2.8	10	0	4	0	
佐伯	1	4	2.8	6	3	2	0	
合計	8	41	2.8	51	9	50	3	

5 歳児発達相談

3. 幼稚園・保育所

園の数，障害児受け入れの実態，専門機関との連携など

- 私立幼稚園 91園
- 公立幼稚園 22園
- 私立保育園 99園
- 公立保育園 89園

(教育委員会からのデータ：公立幼稚園,小中高校の調査について)

註)広島市のデータですが，毎年，4月に調査を実施している。診断名が付いていて保護者から配慮を求められている子どもと，診断名は付いていないが(付いているのかもしれないけれど学校へ連絡されていない場合も含む。

学校として何らかの配慮の必要があると学校側が把握している子どもが調査対象になっている。  
これらの調査対象を「通常の学級に在籍する特別な教育的支援が必要な幼児・児童生徒」としている。  
つまり、学校によっては、診断名があっても、配慮を求められていないから回答にいれていないという学校もある。  
また、この調査の回答にあたって改めて保護者に聞き取るということがないように指示している。  
加えて、本来、この調査では個人名を具体的に上げて、その子どもについての状況を記述してもらっている調査で、  
後々の指導にも活用できるようにしていますので、文科省の調査とは、ねらいも方法も違うため、ずいぶん、文科省の  
調査結果とは下回る数値が出ます。学校長にも単純に文科省の調査結果とは比較できないことを理解してもらっている。  
その上での調査結果(幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校)である。

#### 【幼稚園】

本市立幼稚園全幼児数に占める「特別な教育的支援が必要な幼児数」の割合は、10.4%

(参考)

- ・本市立幼稚園数:22園, 本市立の全幼稚園の在籍幼児数:約1,300人
- ・本年度の該当幼児数は147人
- ・昨年度と同調査での割合は、9.2%
- ・H24の文科省調査結果では幼稚園は調査対象外。一番近い小学校第1学年は9.8%

#### 4. 専門機関

療育・訓練体制の充実別紙p6

療育・訓練体制の充実

- ①こども療育センターにおける医師等専門スタッフの充実及び専門研修の実施(平成24年度:嘱託栄養士の正規化1名,保育士などの研修の実施)
- ②療育センターの外来療育教室の充実(平成24年度:専門家による評価・指導3回)
- ③地域における療育の充実に向けた専門研修の実施(保育園を対象とした療育実習などの実施)
- ④発達障害診断後の家族への研修の実施(基礎的研修の実施,年3回)

(1) 知的障害児を対象とした福祉施設等(施設の規模およびプログラムの概要など)(平成25年度事業概要より)

3 療育センター内の児童発達支援センター(平成25年4月1日現在の職員数)

こども療育センター106人,北部こども療育センター34人,西部こども療育センター47人)

1) 育成園(こども療育センター児童発達支援センター)定員30名(S49.4.1.開所)。506,418㎡

<事業概要>発達に遅れや偏りがあり,継続的な療育が必要な就学前の子どもに対して,生活や遊びを通して総合的な支援を行う通園施設である。近年は自閉症のある子どもが大半数を占めるようになり,自閉症の特性に応じた支援(認知,コミュニケーション,間隔・運動等)の必要性が高まってい

る。障害特性を理解し、特性に応じた支援が乳幼児期から継続されることによって、将来にわたって地域社会の一員として、より適応的で自立度の高い生活を送っていくことに繋がりやすいと思われる。また、保護者のニーズを把握し保護者と協同し療育を進めていくことも、乳幼児期には特に重要であり、その支援を行っている。

#### <プログラムの概要>

通園形態：月～金曜日 職員構成（平成24年4月1日現在）：園長1名、保育士19名（内10名嘱託保育士）指導員1名

日課：9時30分 登園（朝の遊び）

10時20分～11時30分 設定保育（リズム運動遊び・水泳療育・グループ療育など）

11時30分～13時 給食

13時～14時 午睡（この時間を利用して、保護者支援「研修、懇談等」を行っている）

14時～14時45分 降園の集い

14時45分～ 降園（バス通園）

療育形態：(1)クラス編成：親子通園クラス（入園1年目）、単独通園クラス（入園2年目以降）

(2)療育内容：①グループ療育；年齢別、課題別の4グループに分けて療育を行った。

②その他の療育内容：a)リズム運動あそび 週1回 b)水泳療育 毎週1回親子で行う

c)交流療育 近くの市立保育園と念5回の交流を実施

(3)平成24年度の重点的な取り組み：①PECSの取り組み、②作業療法士評価と連携、

③通園施設の一体化に向けた取り組みとして、二葉園（肢体不自由児通園施設）と交流

2) くすのき園（北部こども療育センター内）定員30名（H5.4.1 開所）。687, 27㎡

事業概要：主として知的障害のある児童に対し、日常生活における基本的動作の指導、独立自活に必要な知識技能の付与、又は集団生活への適応のための訓練に係る支援を行う。

#### <プログラムの概要>

クラス編成：生活年齢を基本にしてクラス編成を行う。

通園形態：親子通園親子保育クラス（新入園児を主）

通園日：月曜日～金曜日の週5日。9時30分～14時45分。

保育：課題別グループ保育（子ども達の発達状況に応じて、集団を編成し、週2回の設定保育を組み立てている）

交流保育として、近くの市立保育園年長児（27名）と9回中7回実施。

作業療法士や言語聴覚士と連携し、保護者研修を実施。

3) なぎさ園（西部こども療育センター）定員70名（H16.1.1 開所）。2, 353, 76㎡

事業概要：定員70名のうち、知的障害者40人、肢体不自由児30人の知的障害児通園施設として、平成16年4月に開園した。障害を持つ子どもが園に通い、集団生活の中でさまざまな活動を体験することで、意欲を高め、運動機能の促進をはかり基本的な生活習慣や社会

性を育てていくことを目的としている。

なぎさ園での療育は、保護者とともに子どもの的確なニーズ把握を行い、こども一人ひとりの個別療育計画を作成し、保護者と課題や取組の内容を確認しながら療育を行っている。この個別療育計画の中で、理学療法・言語聴覚療法・作業療法についても、子どもの課題に応じた療法と内容や頻度などを明らかにし、子どもの必要性に応じた計画を立て実践している。また、当初より、西部こども療育センター基本理念と療育目標を常に視野に入れ、年度ごとの重点校も気宇を掲げて療育を行っている

知的障害児対応クラス

#### <プログラムの概要>

##### 通園・療育形態とクラス

知的障害児対応クラス：親子通園クラス（新入園児を主とする）、単独通園クラス（2年目以降）

日課：通園日は月曜日～金曜日の週5日 療育時間は9時30分～14時45分）

9時30分～9時50分：登園・排せつ・身辺整理

9時50分～10時30分：自由遊び、朝の集い（水曜日は地域別療育）

10時30分～11時20分親子療育、設定療育

11時20分～ 排泄・給食準備

11時30分～ 給食

（排泄・午睡準備）

13時～ 午睡・休息（午睡中、保護者支援の一環として、研修・懇談を行う）

降園の集い

14時45分 降園

療育内容：①地域別療育（週1回）②水泳療育（週1回）③保育園交流（市立保育園と年5～6回）

④理学療法・作業療法・言語聴覚療法（個別療育計画に基づき、サポート及び治療を行う）⑤その他（貸出絵本、園芸とクッキング、保護者支援）

（2）知的障害のない発達障害を対象とした福祉施設等（施設の規模およびプログラムの概要など）

平成24年度はなし。

平成25年度から、西部こども療育センターでの受け入れ体制整備

平成26年度～29年度に、北部こども療育センター・こども療育センター（光町）での受入体制について検討・整備の予定

（3）発達障害専門の医療機関（常勤医師および非常勤医師の人数と診療人数）

広島市こども療育センター（小児科医常勤3名、精神科医常勤5名）平成24年度診療人数；

新規1205件（内発達障害763件63%）

総診療件数27132件（二葉園、3885件、愛育園176件を加えると31193件）

北部こども療育センター（小児科医常勤1名）平成24年度診療人数； //

新規 235 件（内発達障害 199 件 85%）

総診療件数 7645 件

西部子ども療育センター（小児科医常勤2名）平成 24 年度診療人数； //

新規 327 件（内発達障害 279 件 85%）

総診療件数 15274 件

「子どもの心の相談医」がいる医療機関 25 ヶ所（広島県教育委員会ホームページから抜粋）  
発達障害の診療を行っている医療機関 30 ヶ所（平成 25 年 4 月現在）

#### （4）特別支援教育

小学校：市立 142 校，その他の公立 2 校，私立 3 校

特別支援学校：県立 4 校 市立 1 校（広島市の子どもも通っている，廿日市市にある特別支援学校を入れると 6 校）

知的障害特別支援学級：市立小学校 142 校中 129 校に設置

情緒障害特別支援学級：市立小学校 142 校中 124 校に設置

通級指導教室：種別と設置校数

言語障害：12 校

弱視：1 校

情緒障害,自閉症,L D,ADHD：5 校

（教育委員会からのデータ：公立幼稚園,小中高校の調査について）

##### 【小学校】

本市立小学校全児童数に占める「通常の学級に在籍する特別な教育的支援の必要な児童数」の割合は，3.9%

（参考）

- ・本市立小学校数：142 校，本市立の全小学校の在籍児童数：約 64,300 人
- ・本年度の該当児童数は 2,536 人
- ・昨年度の同割合は，3.4%
- ・H24 の文科省調査結果による小学校の割合：7.7%

##### 【中学校】

本市立中学校全生徒数に占める「通常の学級に在籍する特別な教育的支援の必要な生徒数」の割合は，3.2%



(参考)

- ・本市立中学校数:64校,本市立の全中学校の在籍生徒数:約28,800人
- ・本年度の該当生徒数は930人
- ・昨年度と同割合は,2.9%
- ・H24の文科省調査結果による中学校の割合:4.0%

#### 【高等学校】

本市立高等学校全生徒数に占める「特別な教育的支援の必要な生徒数」の割合は,0.6%

(参考)

- ・本市立高等学校数:8校,本市立の全高等学校の在籍生徒数:約6,000人
- ・本年度の該当生徒数は36人
- ・昨年度と同割合は,0.3%
- ・H24の文科省調査結果では幼稚園は調査対象外。一番近い中学校第3学年は3.2%

#### 【義務教育段階:小・中学校】

本市立小・中学校全児童生徒数に占める「通常の学級に在籍する特別な教育的支援の必要な児童生徒数」の割合は,3.7%(H21が1.9%,H22が2.1%,H23が2.7%,H24が3.3%と微増)

(参考)

- ・本市立小・中学校数:206校,本市立の全小・中学校の在籍生徒数:約93,100人
  - ・本年度の該当生徒数は3,466人
  - ・昨年度と同割合は,3.3%
  - ・H24の文科省調査結果による小・中学校の割合:6.5%
- この最後の3.7%については,  
H21が1.9%,H22が2.1%,H23が2.7%,H24が3.3%と微増ですが増えているのが現状です。

## 発達障害の累積発生率と有病率

### I 対象1:平成25年度の小学1年生(平成18年4月2日～平成19年4月1日生まれ)

上記の期間に出生した子どもの数(出生コホート) [10961]人(男[5600]人, 女[5361]人)

平成25年4月1日現在, 地域に居住する小学1年生の子どもの数(居住コホート) [11227]人(男[5710]人), 女[5517]人)

(1) 出生コホートからの平成25年4月1日までの発生数(受診した子どものみ) 総受診者数932人中738人(男554人:女184人) ①～④

診断された 年齢	① PDD (F84)						計
	IQ69 以下			IQ70 以上			
	重複なし	F90 あり	他の重複あり	重複なし	F90 あり	他の重複あり	
1 歳代以下	7(5:2)	1(0:1)	0	25(13:12)	0	0	33(18:15)
2 歳代	39(27:12)	4(3:1)	1(1:0)	80(59:21)	9(8:1)	1(1:0)	134(99:35)
3 歳代	34(24:10)	2(2:0)	0	95(67:28)	21(20:1)	5(2:3)	157(115:42)
4 歳代	22(17:5)	3(3:0)	0	63(47:16)	16(16:0)	7(5:2)	111(88:23)
5～6 歳代	23(13:10)	3(3:0)	1(0:1)	88(68:20)	25(21:4)	10(5:5)	150(110:40)
不明	0	0	0	0	0	0	0
合計 (男:女)	125 (86:39)	13 (11:2)	2 (1:1)	351 (254:97)	71 (65:6)	23 (13:10)	585 (430:155)

診断された 年齢	② 多動性障害 (F90; ①を除外)						計
	IQ69 以下			IQ70 以上			
	重複なし	F80 あり	他の重複あり	重複なし	F80 あり	他の重複あり	
1 歳代以下	0	0	0	0	0	0	0
2 歳代	2(2:0)	0	0	0	0	0	2(2:0)
3 歳代	1(1:0)	0	0	3(3:0)	0	0	4(4:0)
4 歳代	2(2:0)	0	0	0	0	0	2(2:0)
5～6 歳代	1(1:0)	0	0	13(12:1)	2(2:0)	1(0:1)	17(15:2)
不明	0	0	0	0	0	0	0
合計 (男:女)	6 (6:0)	0 (0:0)	0 (0:0)	16 (15:1)	2 (2:0)	1 (0:1)	25 (23:2)

表 1. 小 1 の出生コホートの発生率

医療機関受診 (n=738, 男=554, 女=184)

診断	人数	男女比
発達障害全体	738 (6.7%)	554 : 184
PDD	585 (5.3%)	430 : 155
多動性障害	25 (0.2%)	23 : 2
会話・言語	72 (0.7%)	56 : 16
精神遅滞	56 (0.5%)	45 : 11
その他	0 (0.0%)	—

表 2. 小 1 の出生コホートの有病率

医療機関受診 (n=711, 男=530, 女=181)

診断	人数	男女比
発達障害全体	711 (6.3%)	530 : 181
PDD	565 (5.0%)	413 : 152
多動性障害	24 (0.2%)	22 : 2
会話・言語	72 (0.6%)	55 : 17
精神遅滞	50 (0.4%)	40 : 10
その他	0 (0.0%)	—

診断された年齢	① 会話および言語の特異的発達障害 (F80 ; ①②を除外)				計
	IQ69 以下		IQ70 以上		
	重複なし	重複あり	重複なし	重複あり	
1 歳代以下	0	0	3(2:1)	0	3(2:1)
2 歳代	0	0	18(13:5)	0	18(13:5)
3 歳代	1(1:0)	0	17(15:2)	1(1:0)	19(17:2)
4 歳代	1(1:0)	0	10(8:2)	0	11(9:2)
5～6 歳代	1(1:0)	0	18(12:6)	2(2:0)	21(15:6)
不明	0	0	0	0	0
合計	3	0	66	3	72
(男:女)	(3:0)	(0:0)	(50:16)	(3:0)	(56:16)

診断された年齢	⑤ 精神遅滞 (F70～F79 ; ①②③を除外)			その他	
	重複なし	重複あり	計	内訳 (診断と人数)	計
1 歳代以下	19(15:4)	0	19(15:4)	0	19(15:4)
2 歳代	14(10:4)	0	14(10:0)	0	14(10:0)
3 歳代	8(8:0)	0	8(8:0)	0	8(8:0)
4 歳代	7(7:0)	0	7(7:0)	0	7(7:0)
5～6 歳代	8(5:3)	0	8(5:3)	0	8(5:3)
不明	0	0	0	0	0
合計	56	0	56	0	56
(男:女)	(45:11)	(0:0)	(45:11)	(0:0)	(45:11)

PDDについては、診断年齢とIQ69以下、IQ70以上のを比較した、折れ線グラフあり。

IQ69以下に比べ、IQ70以上では、診断年齢のピークは、2歳代から3歳代に偏っている。IQ70以上の4歳代での診断年齢の落ち込みがある。4-5歳での、5歳児相談の充実が望まれる。

小6のPDDの子どもでは、IQ69以下も70以上も、ほとんどが就学前に診断されていることがいえる。

(2) 出生コホートからの平成 25 年 4 月 1 日までの発生数 (未受診例も含む)

① PDDと思われる子ども [585+ ]人 (男[430+ ]人, 女[155+ ]

②①以外で多動性障害と思われる子ども [25+ ]人 (男[23+ ]人, 女[2+ ]

③①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども[72+ ]人 (男[56+ ]人, 女[16+ ]人)

④①②③以外で精神遅滞と思われる子ども [56+ ]人 (男[45+ ]人, 女[11+ ]人)

⑤ その他の発達障害と思われる子ども [0+ ]人 (男[0+ ]人, 女[0+ ]人)

(3) 平成25年4月1日時点での居住コホートに含まれる有病者数（受診した子どものみ）

診断された 年齢	① PDD (F84)						計
	IQ69 以下			IQ70 以上			
	重複なし	F90 あり	他の重複あり	重複なし	F90 あり	他の重複あり	
1 歳代以下	8(5:3)	1(0:1)	0	24(12:12)	0	0	33(17:16)
2 歳代	36(24:12)	4(3:1)	1(1:0)	76(56:20)	9(8:1)	1(1:0)	127(93:34)
3 歳代	30(22:8)	2(2:0)	0	92(65:27)	20(19:1)	5(2:3)	149(110:39)
4 歳代	22(17:5)	3(3:0)	0	64(48:16)	15(15:0)	8(5:3)	112(88:24)
5～6 歳代	24(13:11)	3(3:0)	1(0:1)	81(63:18)	26(22:4)	9(4:5)	144(105:39)
不明	0	0	0	0	0	0	0
合計 (男:女)	120 (81:39)	13 (11:2)	2 (1:1)	337 (244:93)	70 (64:6)	23 (12:11)	565 (413:152)

診断された 年齢	② 多動性障害 (F90 ; ①を除外)						計
	IQ69 以下			IQ70 以上			
	重複なし	F80 あり	他の重複あり	重複なし	F80 あり	他の重複あり	
1 歳代以下	0	0	0	0	0	0	0
2 歳代	2(2:0)	0	0	0	0	0	2(2:0)
3 歳代	1(1:0)	0	0	3(3:0)	0	0	4(4:0)
4 歳代	1(1:0)	0	0	0	0	0	1(1:0)
5～6 歳代	1(1:0)	0	0	14(12:2)	2(2:0)	0	17(15:2)
不明	0	0	0	0	0	0	0
合計 (男:女)	5 (5:0)	0 ( : )	0 ( : )	17 (15:2)	2 (2:0)	0 ( : )	24 (22:2)

診断された年齢	③ 会話および言語の特異的発達障害 (F80 ; ①②を除外)				
	IQ69 以下		IQ70 以上		計
	重複なし	重複あり	重複なし	重複あり	
1 歳代以下	0	0	4(3:1)	0	4(3:1)
2 歳代	0	0	15(10:5)	0	15(10:5)
3 歳代	2(2:0)	0	17(15:2)	1(1:0)	20(18:2)
4 歳代	2(1:1)	0	10(8:2)	0	12(9:3)
5~6 歳代	1(1:0)	0	18(12:6)	2(2:0)	21(15:6)
不明	0	0	0	0	0
合計	5	0	18	3	72
(男:女)	(4:1)	( : )	(12:6)	(3:0)	(55:17)

診断された年齢	④ 精神遅滞 (F70~F79 ; ①②③を除外)			その他	
	重複なし	重複あり	計	内訳 (診断と人数)	計
1 歳代以下	16(12:4)	0	16(12:4)	0	16(12:4)
2 歳代	13(10:3)	0	13(10:3)	0	13(10:3)
3 歳代	7(7:0)	0	7(7:0)	0	7(7:0)
4 歳代	6(6:0)	0	6(6:0)	0	6(6:0)
5~6 歳代	8(5:3)	0	8(5:3)	0	8(5:3)
不明	0	0	0	0	0
合計	50	0	50	0	50
(男:女)	(40:10)	( : )	(40:10)	( : )	(40:10)

(4) 平成 25 年 4 月 1 日時点での居住コホートに含まれる有病者数 (未受診例も含む)

- ① PDD とされる子ども [565+ ]人 (男[413+ ]人, 女[152+ ]人)
- ② ①以外で多動性障害とされる子ども [24+ ]人 (男[22+ ]人, 女[2+ ]人)
- ③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害とされる子ども [72+ ]人 (男[55+ ]人, 女[17+ ]人)
- ④ ①②③以外で精神遅滞とされる子ども [50+ ]人 (男[40+ ]人, 女[10+ ]人)
- ⑤ その他の発達障害とされる子ども [0+ ]人 (男[0+ ]人, 女[0+ ]人)

## II 対象2:平成 25 年度の小学 6 年生(平成 13 年 4 月 2 日～平成 14 年 4 月 1 日生まれ)

平成 25 年 4 月 2 日現在, 地域に居住する小学 6 年生の子どもの数 (出生コホート)

5 区 [6583]人 (男[3355]人, 女[3228]人) 5 区 (中, 南, 西, 佐伯, 安佐北区);

中区 892 人 (男 444 人:女 448 人), 南区 1182 人 (男 600 人:女 582 人),

西区 1898 人 (男 952 人:女 946 人), 佐伯区 1293 人 (男 665 人:女 628 人) 安佐北区 1318 人 (男 694 人:女 624 人)

(1) 平成 25 年 4 月 2 日時点での居住コホートに含まれる有病者数 (受診した子どものみ)

診断された 学年	① PDD (F84)								計
	IQ69 以下			IQ70 以上					
	重複なし	F90 あり	他の重複あり	重複なし	F90 あり		他の重複あり		
					重複なし	F81 あり	重複なし	F81 あり	
就学前	76(52:24)	7(6:1)	8(7:1)	119(87:32)	27(23:4)	1(1:0)	3(2:1)	0(0:0)	241(178:63)
1 年生	1(1:0)	2(2:0)	0(0:0)	14(10:4)	3(2:1)	0(0:0)	2(1:1)	2(1:1)	24(17:7)
2~3 年生	1(0:1)	1(1:0)	0(0:0)	18(10:8)	6(5:1)	3(3:0)	0(0:0)	3(2:1)	32(21:11)
4~5 年生	1(0:1)	2(2:0)	1(0:1)	11(7:4)	7(5:2)	1(1:0)	1(1:0)	4(2:2)	28(18:10)
不明	0(0:0)	0(0:0)	1(1:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	1(1:0)
合計 (男:女)	79 (53:26)	12 (11:1)	10 (8:2)	162 (114:48)	43 (35:8)	5 (5:0)	6 (4:2)	9 (5:4)	326 (235:91)

診断され た学年	② 多動性障害 (F90 ; ①を除外)								計
	IQ69 以下			IQ70 以上					
	重複なし	F80 あり	他の重複あり	重複なし	F80 あり		他の重複あり		
					重複なし	F81 あり	重複なし	F81 あり	
就学前	2(2:0)	1(1:0)	0(0:0)	10(9:1)	2(1:1)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	15(13:2)
1 年生	1(1:0)	0(0:0)	0(0:0)	8(8:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	1(1:0)	10(10:0)
2~3 年生	3(3:0)	0(0:0)	0(0:0)	14(9:5)	0(0:0)	0(0:0)	1(1:0)	4(3:1)	22(16:6)
4~5 年生	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	13(10:3)	0(0:0)	0(0:0)	3(2:1)	1(1:0)	17(13:4)
不明	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)
合計 (男:女)	6 (6:0)	1 (1:0)	0 (0:0)	45 (36:9)	2 (1:1)	0 (0:0)	4 (3:1)	6 (5:1)	64 (52:12)



診断された学年	③ 会話および言語の特異的発達障害 (F80 ; ①②を除外)					計
	IQ69 以下		IQ70 以上			
	重複なし	重複あり	重複なし	F81 あり	他の重複あり	
就学前	3(2:1)	0(0:0)	28(18:10)	1(1:0)	2(2:0)	34(23:11)
1年生	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)
2~3年生	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)
4~5年生	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)
不明	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)
合計 (男:女)	3 (2:1)	0 (0:0)	28 (18:10)	1 (1:0)	2 (2:0)	34 (23:11)

診断された年齢	④ 学力の特異的発達障害 (F81 ; ①②③を除外)			⑤ 精神遅滞 (F70~F79 ; ①②③④を除外)			その他	
	重複なし	重複あり	計	重複なし	重複あり	計	内訳 (診断と人数)	計
就学前	0(0:0)	1(1:0)	1(1:0)	55(35:20)	1(1:0)	56(36:20)	MD	20(9:11)
1年生	0(0:0)	0(0:0)	0(0:0)	2(0:2)	0(0:0)	2(0:2)	登校拒否 (SR)	6(2:4)
2~3年生	4(4:0)	1(1:0)	5(5:0)	7(2:5)	0(0:0)	7(2:5)	WNL	1(0:1)
4~5年生	3(2:1)	1(1:0)	4(3:1)	4(2:2)	1(0:1)	5(3:2)	難聴	5(1:4)
不明	1(1:0)	0(0:0)	1(1:0)	1(1:0)	0(0:0)	1(1:0)	緘黙	2(0:2)
合計 (男:女)	8 (7:1)	3 (3:0)	11 (10:1)	69 (40:29)	2 (2:0)	71 (42:29)	児童思春期障害	2(0:2)
							チック	3(1:2)
							身体表現性障害	1(1:0)
							睡眠障害	1(1:0)
							OED	1(1:0)
							適応障害	3(2:1)
							分離不安	1(0:1)
							その他合計	46(18:28)

(2) 平成 25 年 4 月 2 日時点での居住コホートに含まれる有病者数（未受診例も含む）

① PDD とと思われる子ども	[	]人（男[	]人、女[	]人
② ①以外で多動性障害と思われる子ども	[	]人（男[	]人、女[	]人
③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども	[	]人（男[	]人、女[	]人
④ ①②③以外で学力の特異的発達障害と思われる子ども	[	]人（男[	]人、女[	]人
⑤ ①②③④以外で精神遅滞と思われる子ども	[	]人（男[	]人、女[	]人
⑥ その他の発達障害と思われる子ども	[	]人（男[	]人、女[	]人

表 3. 小 6 の出生コホートの発生率

医療機関受診（n=520, 男=365, 女=155）

診断	人数	男女比
発達障害全体	520 (7.9%)	365 : 155
PDD	326 (5.0%)	235 : 91
多動性障害	64 (1.0%)	52 : 12
会話・言語	34 (0.5%)	23 : 11
学習障害	11 (0.2%)	10:1
精神遅滞	71 (1.1%)	42 : 29
その他	14 (0.2%)	3 : 11

平成18.4.2  
~19.4.1生

出生コホート

出生総数

10961 (男5600人、女5361人)

発生数(発生率)

居住総数

11227 (男5710人、女5517人)

医療機関 (n=738)			医療機関 (n=711)		学校 (n=7985)			
診断例			診断例		診断された		疑い	
738	(6.7%)	発達障害全体	711	(6.3%)	429	(5.4%)	492	(6.2%)
585	(5.3%)	PDD	565	(5.0%)	284	(3.6%)	102	(1.3%)
25	(0.2%)	多動性障害	24	(0.2%)	41	(0.5%)	185	(2.3%)
72	(0.7%)	会話・言語	72	(0.6%)	37	(0.5%)	132	(1.7%)
56	(0.5%)	精神遅滞	50	(0.4%)	49	(0.6%)	45	(0.6%)
0	(0.0%)	その他	0	(0.0%)	18	(0.2%)	28	(0.4%)

有病数(有病率)

居住コホート

平成25.4.1

小学1年生

平成18.4.2  
～19.4.1生

出生コホート

出生総数

10961 (男5600人、女5361人)

発生数(発生率)

居住総数

11227 (男5710人、女5517人)

医療機関 (n=738)			医療機関 (n=711)		幼・保 (n=9558)			
診断例			診断例		診断された		疑い	
738	(6.7%)	発達障害全体	711	(6.3%)	639	(6.7%)	710	(7.4%)
585	(5.3%)	PDD	565	(5.0%)	418	(4.4%)	298	(3.1%)
25	(0.2%)	多動性障害	24	(0.2%)	75	(0.8%)	281	(2.9%)
72	(0.7%)	会話・言語	72	(0.6%)	42	(0.4%)	72	(0.8%)
56	(0.5%)	精神遅滞	50	(0.4%)	71	(0.7%)	52	(0.5%)
0	(0.0%)	その他	0	(0.0%)	33	(0.3%)	7	(0.1%)

有病数(有病率)

居住コホート

平成25.4.1

小学1年生